



香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略

進捗状況シート

平成29年8月28日

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める	
概要 目的	○農業の分野では、担い手の確保、生産基盤強化により、一次産品の安定生産の体制づくり、生産量増加、市の総生産額の増加へとつなげていきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
新規農業者数	7人/年	実績値 14人/年 目標値 10人/年	15人/年

【直近の成果 (アウトカム等)】 新規農業者数 H29年3月末 14人/年 (Uターン13人、Iターン1人)
 ※平成28年度新規就農者集計表 (平成27年6月2日～平成28年6月1日に就農した者) 高知県中央東農業振興センター調べ

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

- (1) 農業の振興
- ①農業生産基盤の充実
 - ・農業基盤整備促進事業において、老朽化した頭首工他の整備を実施。事業費の縮小により、3箇所の整備を予定していたが1箇所の整備しかできなかったが、計画期間における事業の進捗は順調である。
 - ②治水・利水整備の促進
 - ・工業用水道および農業集落排水整備事業において、予定どおり4件の水路整備等を実施。
 - ・排水事業PRに向けた環境出前講座を小学校(佐古小、岸本小)で実施。
 - ③担い手対策の促進
 - ・新規就農者として、平成28年度は各種補助制度の活用もあり、14名が営農を開始。
 - ・新規就農者や規模拡大農家に対して園芸用ハウス建設の助成を行う、園芸用ハウス整備事業を実施。中古ハウス3件、新規ハウス6件(合計9件14,879㎡)が整備された。予定整備件数(12件)には至らなかったが、中古ハウスは農業者、新規ハウスは土佐香美農協が事業主体となり、連携を密に事業は順調に実施。
 - ・新規事業の研修・親元就農支援事業では3名が研修を終了し、営農を開始。
 - ・就農直後の不安定な経営に対して後継者の方に補助を行う、農業後継者推進事業を実施。広報に掲載し、10件の実績がある。
 - ・青年就農給付金事業については、就農相談は多かったが、事業の要件が厳しく該当者はいなかった。
 - ・ハウス園芸作物の収量向上のため、炭酸ガス発生装置等の導入に対する経費の一部を助成する環境制御技術普及促進事業を実施。33戸が利用し順調に実施。
 - ④農産物ブランド化の推進と加工品の開発
 - ・産業振興推進総合支援事業において、これまでエメラルドメロン販売力向上対策として生産面新技術導入や販売戦略の構築を行い、高品質・生産力向上の対策を実施。
 - ・ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」として、新技術や有望品種の導入などによる反収の増加、コスト削減を進めるとともに作型改善など経営の安定化を行い、流通・販売上の対策を実施。
 - ⑤消費者の安全安心志向への対応
 - ・地産地消推進協議会事業により、耕作放棄地を利用した学校給食米の栽培を実施、耕作放棄地の解消につなげている。(H27年度：0ha→H28年度：4.2ha)
 また、学校給食市内野菜(主要品目)の使用率向上に向けた取り組みも順調に実施しているが、本年度は夏場の水不足により野菜価格の高騰で地元食材の購入を控え、利用率は31.0%となった。夏場の野菜対策として予冷库を新設した。
 - ⑥中山間農地の保全と活用の促進
 - ・中山間地域等直接支払事業により、農業生産条件が不利な地域において支援強化を行う。新たな協定締結に向けて調整を実施。昨年度より3組織増え、11組織となる。
 - ・有害鳥獣被害対策事業として、目標以上の598頭羽を捕獲。被害防止柵は延長7,539m設置。

(産業振興推進農業部会での意見など)

○山北みかんをブランド化していくために、何らかの事業で予算化できるのであれば活用させてもらうので、協力をお願いしたい。
 ○中山間複合経営拠点構想における研修用ハウスは新規就農者のための施設であってほしい。

2. 課題と今後の取組

- (1) 農業の振興
- ①農業生産基盤の充実
 - ・防災関連事業が優先となっており、計画どおりの予算割り当てが厳しい状況であるが、引き続き、県などに要望・陳情を行う。また、別事業での採択実施に向け検討・協議を行い、新規事業導入を進める。
 - ②治水・利水整備の促進
 - ・事業代表者との協議を行い、早期竣工に向け計画的に進めていく。
 - ・引き続き、環境出前授業やふれあい祭りイベントでの加入促進を実施する。
 - ③担い手対策の促進
 - ・新規就農者が増えるよう、引き続き就農支援や補助制度の充実を図り、担い手対策の促進に努める。
 - ・申請者の都合で取り下げとなったハウスがある。施設園芸農業の一層の振興を図るため取り組みを継続実施する。
 - ・広報などでの補助制度の周知を継続し、新規就農者の確保と育成を図る。
 - ・広報などでの補助制度の周知を継続し、農業後継者への補助と育成を図る。
 - ・青年就農給付金事業の実績はなかったが、相談は多く、引き続き周知と取り組みを継続していく。平成29年度からは、農業次世代人材投資事業に名称変更(見直し・拡充)されるが、引き続き制度について広報等で周知し、青年就農者の確保を図る。
 - ・環境制御技術普及促進事業は、対象者を見直し、団体(組織)でなく個人でも申請できるように要綱を改正する。利用者の増加が見込まれることから、引き続き、環境制御技術の導入を促進し、施設園芸の振興を図る。
 - ④農産物ブランド化の推進と加工品の開発
 - ・エメラルドメロンについては、引き続き、増収、高品質生産向上対策、生産コスト低減技術により生産性強化を図るとともに、ブランド力の強化、有利販売につながる、知名度・販売力の向上対策を実施する。
 - ・ニラについては、高温対策技術の確立や雇用労力確保、規模拡大など生産上の対策を実施するとともに、流通・販売上の対策を実施する。
 - ⑤消費者の安全安心志向への対応
 - ・野菜の一時保管で、市場価格に左右されない体制作りを検証する。
 - ⑥中山間農地の保全と活用の促進
 - ・中山間地域等直接支払事業による新規協定の増加に向け、地区説明会を実施する。
 - ・狩猟免許試験や補助金・報償金等の案内を広報等で周知し、より一層の有害鳥獣対策の周知を行う。



平成29年度の新たな取組

- NEW** ①施設野菜等の栽培や農業用機械の操作等の研修に対する助成として、**担い手育成センター研修支援事業**を実施
- 拡充** ②**環境制御技術普及促進事業補助金**の対象者要件の見直しを実施。
- NEW** ③特産品の消費拡大や6次産業化等の推進を行う**農業活性化地域協議会事業**を実施。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める	
概要 目的	○林業の分野では、生産性向上と森林の保全・活用に加えて、森林資源を活用した所得の向上と雇用の創出を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
森林境界明確化面積	1 8 8 ha	実績値 0 ha 目標値 0 ha	6 0 0 ha 以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 森林境界明確化面積 H29 年 3 月末 0 ha
 ※森林境界明確化事業 (団地化及び境界明確化) 本年度は未実施。

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

- (2) 林業の振興
- ・森林境界明確化事業 (団地化及び境界明確化) は、他市において重点的に計画が実施されたため本年度は未実施。
 - ①森林の多面的な利活用の促進
 - ・緊急間伐総合支援事業を実施。計画どおり進めているが、地権者の同意が得られず規模が縮小となる。
 - 切捨間伐 (計画 10ha) 夜須町羽尾・沢谷 【未実施】
 - 保育・搬出間伐 (計画 30ha) 香我美町撫川・舞川 【16ha 実施】
 - 作業道整備 (計画 2800m) 香我美町撫川・舞川 【2,802m 実施】
 - 人工造林 (計画 3ha)、被害防護ネット (1000m) 香我美町別役 【平成 29 年度に実施予定】
 - ・森林整備地域活動支援事業を実施。計画どおり進めているが、地権者の同意が得られず規模が縮小となる。
 - 森林経営計画 (計画 100ha) 香我美町撫川・夜須町仲木屋・沢谷 【84.41ha 実施】
 - 施業集約化計画 (5ha) 香我美町奥西川 【未実施】
 - 条件整備 (計画 作業道の改良 50ha) 香我美町撫川・舞川・奥西川 【未実施】
 - ・水源の森整備事業を実施。計画どおり実施。
 - 搬出間伐 (計画 5ha) 香我美町撫川 【5ha 実施】
 - ・森林整備推進事業 (高性能林業機械導入) を実施。脱着式コンテナについては導入時期が延期となり、平成 28 年度に導入できなくなったが、それ以外は概ね計画通り事業実施できている。
 - 木材自動選別機 【H28 年 10 月から可動】
 - 脱着式コンテナ 【H29 年 3 月末導入から H29 年度導入に変更】
 - ②森林の活用 (木質バイオマス利用促進)
 - ・農業ハウス用ペレットボイラー数は、現状 2 基を継続使用。木質バイオマス利用促進事業については、6 月末に全体協議会が開催され、木質バイオマスボイラーの導入状況及びペレット需用状況とバイオマス発電の稼働状況など協議を行った。

(産業振興推進農業部会での意見など)

- 森林の自然環境破壊や鳥獣被害の問題が深刻化している。また、イノシシ・シカだけでなく猿の目撃情報も多く、椎茸や野イチゴの被害報告がある。
- 世代が変わり境界だけでなく所有者自身が場所も分からなくなっている。山林の相続の問題がある。
- 林道の未登記箇所があり、個人の土地へ入り込んでいるため早急に確認が必要。

2. 課題と今後の取組

- (2) 林業の振興
- ・次年度は実施を予定しており、香美森林組合と連携を図り事業を実施する。
 - ①森林の多面的な利活用の促進
 - ・緊急間伐総合支援事業については、引き続き地権者に事業の説明を行い、理解と同意者を増やしていく。人工造林、被害防護ネットについては事業申請が平成 29 年度になったので、平成 29 年度に事業実施していく。
 - ・森林整備地域活動支援事業についても、引き続き地権者に事業の説明を行い、理解と同意者を増やしていく。
 - ・水源の森整備事業については概ね計画通り実施しており、引き続き事業実施していく。
 - ・森林整備推進事業 (高性能林業機械導入) として、延期となった脱着式コンテナの整備とタワーヤーダ (1 台) を整備する。
 - ②森林の活用 (木質バイオマス利用促進)
 - ・導入当初に比べ原油価格も下落したことなどにより、年間燃料費の大幅なコストダウンには至っていない。今後は、機器の耐用年数の問題も発生するなど利用者の意向と併せて関係機関と連携した協議の場を設ける。



平成 29 年度の新たな取組

- NEW** ①森林・山村多面的機能発揮対策事業として、里山の保全・森林資源の利活用等の取り組みに支援を行う。
- NEW** ②林地台帳整備事業の実施。(森林情報の確認・提供及び地図の公表)

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する

基本的方向： (1) 足腰を強め「地力」を高める

概要目的
 ○生産基盤充実や後継者育成支援、観光産業との連携を推進し、資源回復と経営力の強化により稼げる水産業を目指します。
 ○農業・水産業における加工、流通、販売体制を強化するために、水産加工品の付加価値向上を図り、農業、水産業における加工・流通・販売体制を強化、香南市ブランドの展開や販路拡大を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
沿岸漁業総生産量	1,313 トン	実績値 693 トン 目標値 1,200 トン以上	1,200 トン以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 沿岸漁業総生産量 H29 年 3 月末 693 トン

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

・赤岡・吉川における漁獲高が例年になく不漁であったことから、沿岸漁業総生産量は 693 トン (目標値の 57.7%) と目標を大きく下回った。

(3) 水産業の振興

- ①漁港の改修・整備等の推進
 - ・漁港施設の老朽化に伴い、計画的に漁港の保全・改修整備を行ったが、改修整備率は 19.0% で目標数値を下回った。原因は、住吉漁港東防波堤保全工事が入札不成立となったため、翌年度に繰越となったためである。
 - 吉川漁港施設用地舗装復旧工事および吉川漁港-1.5m物揚場 (北) 保全工事は順調に実施。また、吉川、住吉漁港航路標識保守点検も予定どおり実施。
- ②漁業経営の基盤強化
 - ・老朽化に伴う各種漁業用施設の改修、整備を予定箇所 (5 箇所) 全てで順調に実施。
 - ・赤岡、吉川漁港における鳥害対策の効果的な実施に向けた検討を協議。高知県漁協赤岡支所の荷捌所 (一部) でネット・バードピンの対策を施行。
- ③漁場の保全
 - ・母藻の設置やウニ駆除など、手結地区藻場保全活動を順調に実施。除去地区の海藻類育成被度は 44%。(母藻の設置 1 回、ウニ駆除 5 回、魚類駆除 2 回、モニタリング 1 回)
 - ・赤岡・吉川地区の掃海活動を実施
- ④観光漁業の推進
 - ・地産地消推進事業と連携し、小学生地引き網体験 (11/13 実施) したが、年度途中から休業中である。
- ⑤水産加工品流通販売の推進
 - ・販売先の拡大などにより、4,058 万円と販売金額は大きく目標を達成。

(4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化

- ①地産地消の推進
 - ・学校給食へのシイラ加工品の納入回数は 22 回。また、地産地消の推進及び体験学習として、地引網、釜揚げ、シイラのフライ体験 (11/13) と地元漁業の学習 (1/27) を実施。
- ②加工・流通・販売などの体制を強化
 - ・手結支所加工場整備事業によりヘッドカッターを導入し、作業効率の向上が図れた。

(産業振興計画推進水産業部会での意見など)

- 新規漁業就業希望者がいても住む場所を用意しないと難しい。新規就業者の確保のため地域支援課と連携し、U・I ターン者の受入を図る。住居については入居者のいない市営住宅の活用を図ってはどうか。
- 水産加工品流通販売の推進について、納品先の増加や鮮度維持に繋がることから、手結支所の加工場に真空パックの機械を導入してほしい。また、食育活動の教材として漁法 (シイラ巻き網漁・バッチ網漁) や養殖場、加工場の作業を DVD 化し、魚を捕る方法から食卓に届くまでを小学生に伝えることも必要ではないか。

2. 課題と今後の取組

・沿岸漁業の総生産量は好漁、不漁の関係も大きく影響するものであるが、漁業者の所得向上のために、エンジンリース事業や沖合養殖振興事業を有効的に活用することと、シラス漁の所得向上を図るための課題を抽出し、市・漁協・漁業者・加工業者との連携強化を図り、協議の場を設ける

(3) 水産業の振興

- ①漁港の改修・整備等の推進
 - ・引き続き漁港施設の機能保持のため計画に沿った保全工事を実施する。また、来年度は海岸保全施設機能保持のため、「海岸保全施設長寿命化計画」の策定を行う。
 - 県管理の港湾、漁港、海岸事業への施設整備の継続要望を実施する。
- ②漁業経営の基盤強化
 - ・漁業用施設の老朽化が進んでおり、機能保持のための改修、整備を継続的に実施する。
 - ・施行区域での鳥害対策一定の成果は得られたが、未施行区域でのフン害等の解消までは至らず、施設の衛生管理対策の検討を継続して行い、継続または新たな対策を実施する。
- ③漁場の保全
 - ・食害被害のウニ・魚類駆除の継続実施と、母藻が現場海域の水質に適したものか検証していく。
 - ・掃海活動については、継続実施と活動団体の強化を図る。
- ④観光漁業の推進
 - ・地引き網漁業は 1 経営体であり、後継者がいないことから休止の状況になっている。市の観光の中心を担ってきた地引き網の存続に向けた取り組みを関係機関と行う必要があるが、具体的な取り組みはまだ見えていない。
- ⑤水産加工品流通販売の推進
 - ・シイラ加工商材の新たな事業展開として、水産物ブランドの確立や鮮度保持の向上を図り、市外への販路拡大などに取り組み、さらなる漁業経営の安定化、雇用人員の確保に努める。



(4) 農業・水産業における加工・流通・販売体制の強化

- ①地産地消の推進
 - ・シイラ加工品の学校給食への納入増加に伴い収益の増加につながっている。引き続き、普及啓発と食育授業、体験学習の継続及び強化を図る。
- ②加工・流通・販売などの体制を強化
 - ・シラス加工品の新たな事業展開として新商品の開発等についても協議を行う。

平成 29 年度の新たな取組

NEW 海岸保全施設を良好な状態で保っていくための、[海岸保全施設長寿命化計画](#)を策定する。

NEW [遊漁船業等振興事業](#)の実施 (遊漁船設備リース等)。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (2) 新たな産業づくりに挑戦する	
概要 目的	○商工業の分野では、既存企業への育成支援、地場産業や観光施設との連携により、魅力ある商業地・商店街づくりを推進するなど、ものづくりからの雇用拡大と地域の賑わいを創出します。 ○6次産業化による新産業の創出では、生産者が付加価値を生み、産業を活性できる仕組みづくり、及び関係機関と連携し、補助事業の活用等を含めて支援していきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
製造品出荷額	407 億円	実績値 H29.9 月公表 目標値 500 億以上	500 億円以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 製造品出荷額 H29 年 3 月末 (H29 年 9 月公表) 億円
 ※実績値は、平成 29 年 9 月公表予定 (H27 経済センサス調査)
 ※H27 経済センサス調査の数値は、H27 年 (前年 (暦年)) の金額となる。

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

(1) 商工業の振興

- ①企業誘致の促進
 - ・香南工業団地整備事業により整備された区画の早期完売の取り組みを実施。残り 1 区画について、香南市への問い合わせは 4 件。
 - ・香南工業団地への新規立地件数は 2 件 ((株)精工・山本貴金属地金 (株)) で、計画どおり実施。
- ②既存企業の育成・支援
 - ・企業訪問を 9 社 (訪問回数 12 回) 実施し、企業と意見交換を実施。
 - ・香南市緊急融資保証料補給金事業において、高知県信用保証協会と補給金交付契約書を締結。6 件の利用実績がある。
- ③魅力ある商業地・商店街づくり
 - ・香南市地域経済活性化委員会を開催しポイント制度導入に向けて検討を行った。また、商工会会員へのアンケート調査も行い、結果、ポイント制度導入は一時休止となる。
- ④空き店舗の活用
 - ・平成 28 年 10 月 1 日に空き店舗対策事業費補助金交付要綱を制定し、市のホームページへ掲載。市内金融機関を訪問して事業説明を実施したが、活用件数はなかった。
- ⑤新規企業の育成支援
 - ・行政や企業間の情報交換の場として、交流会及び懇談会を 3 回開催。情報交換とあわせて、香南市産業人材育成事業の紹介を行った。

(2) 6次産業化による新産業の創出

- ①魅力ある新商品の開発
 - ・ヤ・シィパーク周辺地域の活性化策として、特産品を活用した氷菓や焼き菓子類を製造販売する加工所兼店舗「フルーツアイスパーク専門店&スイーツカフェ「mana mana」」が開店。売上は開店時期が遅れたこと、加工・外販ともに必要な人員の確保が計画どおり進まなかったこともあり、売上は 10,628 千円 (期間約 8 ヶ月：H28.7/23~H29.3/31)、目標の 47,934 千円 (期間 H28.4/1~H29.3.31) には至らなかった。

(産業振興計画推進工業部会での意見など)

- ルネサス高知工場の承継先の確保及び川谷第二工業団地への企業誘致を早期に望む。
- 香南工業団地の分譲条件を見直し、既存企業と連携して付加価値を生むようなビジネスができる他業種参入の要件を追加してはどうか。
- 産業人材育成事業費補助金は、補助対象事業の拡大 (講師招聘) とポリテクと連携して、企業のニーズに合った研修プランの提供をしてはどうか。
- 市内のインキュベーション施設としてポリテクの有効活用の検討。
- 国内外のバイヤー招聘に観光等を結びつけて、香南市の産業振興に発展させる補助事業の検討。
- 香南市ものづくり会は異業種を含めて新組織化し、活性化を図ってはどうか。

2. 課題と今後の取組

(1) 商工業の振興

- ①企業誘致の促進
 - ・工業団地の残り 1 区画 (約 1.6ha) について、県企業立地課と連携し早期完売を目指す。
 - ・平成 29 年度は (株) 泉井鉄工所が香南工業団地へ、ルネサス山北寮跡地へ宇治電化学工業 (株) が立地予定。
- ②既存企業の育成・支援
 - ・引き続き、企業を訪問し情報提供や意見交換を行う。
 - ・信用保証協会と連携し、中小企業の経済的負担の軽減を図る。
- ③魅力ある商業地・商店街づくり
 - ・イベントの開催やガイドブック更新等について商工会等と引き続き協議を行う。更新に向けての協力体制やデータ作成も視野に入れる。
- ④空き店舗の活用
 - ・広報不足であったので、一層広報活動に努める。
 - ・商工会主催の創業塾等で創業希望者の掘り起こしを行う。
- ⑤新規企業の育成支援
 - ・交流会及び懇談会は行政や企業間の情報交換の場として実施。多角的な情報交換が出来るよう、県や市以外との機関との交流や内容の充実に努める。

(2) 6次産業化による新産業の創出

- ①魅力ある新商品の開発
 - ・原材料の必要数量の確保、計画的な製造及びストックの冷凍庫を整備することにより、繁忙期 (夏場) での売上に繋げていく。また、企業との商談や販路拡大に向けて、引き続き取り組む。

平成 29 年度の新たな取組

- NEW** ① **香南市インターンシップ支援事業**として、市内の製造業の事業所が実施するインターンシップに係る宿泊費の一部を定額補助する。
- NEW** ② 香南市内で創業しようとする方を対象に、創業資金の融資を受けた際の借入利子の一部を補給し、創業時の負担を軽減する **創業支援利子補給金事業**を行う。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (2) 新たな産業づくりに挑戦する。	
概要 目的	○観光のまちの育成では、観光地や施設を訪れた人が地域交流を楽しむ機会づくりや受入体制の充実、また、安心して楽しむための整備を推進するとともに、地域の情報発信力強化に取り組みます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
観光施設入込客数	93 万人	実績値 104.7 万人 目標値 100 万人	120 万人以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 観光施設入込客数 H29 年 3 月末 104.7 万人
 ※対象施設…のいち動物公園、月見山こどもの森、ヤシパーク、絵金蔵、香南市サイクリングターミナル(宿泊以外)、天然色市場、やすらぎ市、あぐりのさと、アクトランド、黒潮温泉、土佐カントリークラブ

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

(3) 観光のまちの育成

- ①観光・交流の拠点の場づくりと市民参加
 - ・物部川流域フェスタ実行委員会におけるイベント部会の開催。(延べ 5 回)
第 2 回物部川フェスタを開催(9/25)し、来場者は約 4,000 人。目標来客数には至らなかったが、「食」をテーマに「体験」を通して、広く地域住民が交流できた。
(出店 21 店舗、体験イベント(カヤック、雲梯)実施。
物部川流域三市合同イベント開催に関する実行委員会の開催。(11/29)
- ②情報発信手段の効果的な活用
 - ・外国人観光客受入環境の整備(Wi-Fi、観光案内板)として、公衆無料 Wi-Fi の整備 6 箇所を実施。
(のいち駅、ヤ・シパーク、絵金蔵、弁天座、サイクリングターミナル、天然色市場)
また、ヤ・シパーク施設案内板を 1 件(5 カ国語表記)実施。
(* 5 カ国語…英語・中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・タイ語)
アクトランド・のいち動物公園では多言語パンフレットを作成し、のいち動物公園どうぶつ科学館では、無料 Wi-Fi を整備した。
- ③地域に親しむ観光の促進
 - ・まちあるきガイドの案内体制が強化でき、現在 26 名が活動可能な状況。団体客の受入も可能となり、観光消費の拡大や滞在時間の延長に繋がっている。
 - ・ウォーキングコースは計画以上にコース設定(4 コース)が図れた。
 - ・サイクリングコースは、高知県推奨の 3 コースの整備を行った。また「志国高知 幕末維新博」事業で、観光協会がのいち駅にレンタサイクルを増台し、サイクリングコースを策定(周遊マップ作成)。あわせてアクトランドが新規でレンタサイクルを購入し、香南市のサイクリング知名度が向上した。サイクリング専門委員会を開催。(10/20, 1/19)
- ④活性化に向けたあらゆる産業との連携強化
 - ・平成 28 年 10 月に作成した香南市ギフトカタログ通年号「まるごと旨市」では 36 事業所を掲載。市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援事業(カタログ販売)において、生産者会議やカタログ部会を開催し、広報活動として市広報や地域情報雑誌「こじゃんと」にて紹介、商談会や市内各施設にて配布。また、まるごと高知、まるごと日本、移住促進センター(以上、東京都)や市内外イベント会場にて配布等を行い、販売額向上に取り組んだ。【カタログ販売額 2,861 千円】

2. 課題と今後の取組

(3) 観光のまちの育成

- ①観光・交流の拠点の場づくりと市民参加
 - ・出店及び出演者に対してアンケートの実施、来年度の開催に向けた事業計画に反映を行う。
物部川流域フェスタ実行委員会を「物部川DMO協議会」へ引き継ぎ、3 市(南国市・香美市・香南市)と 3 市の観光協会・商工会を中心に、開催時期や場所、内容等を検討し、イベントをきっかけとして観光施設を周遊できるようにする。
- ②情報発信手段の効果的な活用
 - ・引き続き外国人観光客の受入環境の整備を実施する。
- ③地域に親しむ観光の促進
 - ・勉強会や研修を通じて、案内人の育成や人数の増加を図る。また、まちあるき案内コースとマニュアルの整備を行う。
 - ・引き続きウォーキングコースの設定を行う。
 - ・サイクリング専門委員会と連携しながら、地域全体で盛り上がる体制づくりを行い、県や関係市町村と連携し、コンセプト(食・歴史・景観等)を持ったコース設定を行う。また、サイクリングコースの安全性や快適性を高めるため、注意喚起標識や案内板の整備を進めるとともに、サイクリングイベント等の開催やプロモーションを行い交流人口の拡大を図る。
- ④活性化に向けたあらゆる産業との連携強化
 - ・商品の PR やイベント等での情報発信を引き続き行い、香南市のファンの増加を図る。また、一層の生産者との連携を行い、参加事業所やカタログ品目の増加を図る。



平成 29 年度の新たな取組

NEW ①大型クルーズ船などの外国人観光客受入にむけて、関係各機関や団体と連携し、市への誘客の仕組みを構築する。(大型クルーズ船の誘客促進事業)

(産業振興計画推進観光部会での意見など)

- 香南市全体をサイクリングしてもらえよう、さまざまなコース設定を検討。
- 外国人はグーグルアースで追体験してから来る。絵金蔵やいち動物園の内部、サイクリングコースをグーグルアースで見ることができるようになれば、効果的ではないか。(アクトランドは H28 年度に登録済)
- 全国放送を使って市を売り込んでいく。例えば、まるごと高知でニラを売って、あるお客さんが毎月ニラを買っているということをレポートし、全国に放送されれば影響があるのでは。
- 野市と言えば「朝どれ」という言葉を、いかにイメージ付けできるかが勝負。
- 「志国高知 幕末維新博」の地域会場の絵金蔵とアクトランドが目玉となるような企画をしていき、来てくれた方に地域を周遊してもらおう仕組みをつくっていかうと考えている。

(サイクリング専門委員会での意見など)

- 高知龍馬空港で自転車梱包用段ボールの一時預かり業務ができるよう話が出来ないか。(松山空港が実施しており、サイクリストからは好評を得ている)
- 既存のものを利活用し、イベントも環境整備もできることから次々とやっていくべき。
- 自転車の預かりシステムがあると、サイクリストだけでなくお遍路さんにも利用してもらえよう。
- 産業振興計画の一部としてではなく、協議会などの新たな組織を立ち上げてはどうか。実行委員会や協議会があれば、新たなサービスの展開、イベント等をスムーズに行うことができる。

基本目標 1： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する	
基本的方向： (3) 分野を超えた産業間の連携を強化する	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化による地産地商の徹底では、生産物の出荷価格の維持、付加価値化による生産物の出荷価格の安定。食糧の安定供給、地場製品の生産の維持・継続を図ります。 ○観光拠点形成とネットワーク構築では、地域資源の再発見を進めるとともに、各観光施設・交流拠点のネットワーク化を図り、観光資源を点から面へと一体化した情報提供や、観光協会などの支援を促進します。 ○産業人材の育成・確保では、ハローワークや企業など、さまざまな分野との連携を強化し、就労機会の拡大に努めるとともに、県と連携し産業振興等につながる人材育成の実施を支援していきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
観光施設入込客数	93 万人	実績値 104.7 万人 目標値 100.0 万人	120 万人以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 観光施設入込客数 H29 年 3 月末 104.7 万人

※対象施設・・・のいち動物公園、月見山こどもの森、ヤシバーク、絵金蔵、香南市サイクリングターミナル(宿泊以外)、天然色市場、やすらぎ市、あぐりのさと、アクトランド、黒潮温泉、土佐カントリークラブ

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

- (1) 6次産業化による地産地商の徹底**
- ①地産地商の拠点(直売所)の機能拡充
 - ・やすらぎ市、あぐりのさと、天然色市場などの直販所での集客数は 281,486 人と目標値 (300,000 人) には至らなかったが、主力商品の定着、充実を図り、生産農家の所得向上に取り組んだ。
 - ②地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援
 - ・西川集落活動センターでは、高知大学地域協働学部の学生との連携により、砂糖を使わず健康に良い山北みかんのピューレを開発。
- (2) 観光拠点形成とネットワーク構築**
- ①資源の再発見(価値化・付加価値化)
 - ・新たな観光拠点の形成として、平成 27 年度に「三宝山基本構想磨き上げ検討委員会」が行われ、平成 28 年度は、シャトー三島の耐震診断を実施。土地及び建物所有者との使用賃借契約の締結を行った。(無償：H29.4/1～H34.3/31)
 - ②観光・交流の場づくり(地域住民参加)
 - ・地域の特色を活かした祭りやイベントの開催により、目標値 (60,000 人) を上回る集客数と観光・交流が図れた。
 - ③観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築
 - ・中央広域観光協議会で近畿日本ツーリストにエージェント訪問を実施。
 - ④物部川流域 3 市での観光振興
 - ・物部川 DMO 協議会を設立(6/30)し、物部川流域 3 市の観光振興が図れた。本年度は設立年にあたるため、主要観光施設入込数の設定は行っていないが、来年度の目標値をすでに本年度上回る入込数となっている。

※注)日本版 DMO とは・・・地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。
- (3) 産業人材の育成・確保**
- ①雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場(拠点)の整備
 - ・本年度 6 月に香南市産業人材育成事業の補助金交付要綱及び公募要領作成を作成し施行。広報や HP での周知、商工会を通して事業所へ公募要領の配布、香南市香我美町立地企業交流会や香南市ものづくり会交流会で紹介を行ったが、利用実績には至っていない。(問い合わせ 3 件)
 - ・香南市未来人材奨学金支援事業の補助金交付要綱及び公募要領を作成し施行。HP への掲載や市内対象業者を訪問して事業説明を行ったが、利用実績には至っていない。(問い合わせ 1 件)

産業振興計画推進商業部会・工業部会・観光部会およびサイクリング専門委員会での意見など

※資料 2-4 商工業の振興、資料 2-5 観光のまちの育成と同様

2. 課題と今後の取組

- (1) 6次産業化による地産地商の徹底**
- ①地産地商の拠点(直売所)の機能拡充
 - ・やすらぎ市、あぐりのさと、天然色市場などで地場産品を活かした加工品の販売や一層の PR を行い、集客数増加及び売上増加につなげる。
 - ②地域内での創意工夫によるコミュニティビジネスの支援
 - ・新しく開発したピューレを使って商品開発に取り組む。
- (2) 観光拠点形成とネットワーク構築**
- ①資源の再発見(価値化・付加価値化)
 - ・三宝山の観光拠点化に向けた基本計画の策定について、参画事業者を含めた検討委員会の中で行う予定であったが、事業者との調整に時間を要し、基本計画策定に欠かせない事業者の参画が H28 年度は見込めなくなった。今後、基本構想磨き上げ検討委員会できりまとめたエリア活用の方向性や、市職員等で三宝山の観光拠点化に向けて必要なことは何かを具体的にイメージするワークショップでの協議をもとに、民間事業者が参画する検討委員会を立ち上げ協議を行う。
 - ②観光・交流の場づくり(地域住民参加)
 - ・祭りやイベントの周知徹底を行い、更に地域住民の参加及び交流人口拡大につなげる。
 - ③観光旅行会社(企画)とのタイアップによる複数観光ルートの構築
 - ・引き続き、観光旅行会社等に PR を行い、香南市での滞在と観光素材への集客拡大を図る。また、セールスキャラバン等にも参加し香南市の知名度アップを図る。
 - ④物部川流域 3 市での観光振興
 - ・物部川 DMO 協議会による取り組みを実践していく。おさかなクリスマスで実施したアンケート調査及び年末年始の周辺観光施設への波及効果等を分析し、物部川エリアマーケティング戦略の基本情報とする。12/23 のキックオフイベントをきっかけとし、広域観光組織の一体感の醸成及び関係者が共同して具体的な取組を実践していく。
- (3) 産業人材の育成・確保**
- ①雇用支援、企業支援のための情報発信、情報入手の場(拠点)の整備
 - ・香南市産業人材育成事業は、小規模企業などは製造ラインに影響等が出るので人材研修に参加しづらい。要綱の改正を行い、より利用しやすい補助制度とする。あわせて、事業所への案内を一層行う。
 - ・香南市未来人材奨学金支援制度は、一層の広報活動と対象事業者への周知を行う。

平成 29 年度の新たな取組

拡充 ①香南市産業人材育成事業の補助対象となる事業を追加し、利用しやすい補助制度とする。(対象となる追加事業・・・補助対象者が講師を招聘し、市内で開催する研修)

基本目標 2： 魅力あふれる産業を振興し、安定した雇用を創出する

基本的方向： (1) 移住のためのしくみづくり

- 概要
目的
- 情報発信や移住相談を推進します。
 - 若者の出会いの機会や情報交換ができる場づくりや交流事業を支援します。
 - 地域内で経済の好循環を生み出す取組みを推進します。
 - 県と連携した取組みを推進し、また「移住フェア」などを活用して移住の促進を図ります。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
社会増減	社会減	実績値 目標値 社会減 31 人 社会増 91 人	社会増 120 人以上
県外からの移住者	3 組	実績値 目標値 6 組 2 組以上	20 組以上

【直近の成果 (アウトカム等)】 社会増 △31 人 (転入：1,246 人、転出：1,277 人)
県外からの移住者 6 組 ※県移住促進課および地域支援課調べ

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

(1) 移住・定住促進のためのしくみづくり

- ①「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信
 - ・移住応援ガイドブック(香南住む〜ず)を作成。
平成 28 年 10 月、市HPに「移住」のカテゴリを追加。アクセス数は 3,582 回と目標値を大きく上回った。
平成 29 年 3 月 31 日、移住専門HP「香南住む〜ず」を開設。
- ②若年層の交流・情報交換やイベント開催
 - ・若年層の交流、イベント開催支援として、「香南市恋い・めぐりあい応援事業」を実施。
婚活支援団体(よりあいにこ家)が夜須町において 2 回のイベントを開催。(①9/4 男女 18 人、②12/24 男女 20 人) また、香南市主催の婚活セミナーを羽尾大釜荘で開催し、男女 19 人が交流。(合計 77 人)
- ③産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援
 - ・平成 25 年 4 月に開設した西川地区集落活動センターでは、高知大学地域協働学部の学生との連携により、植樹祭や西川の紹介冊子の作成(集う部会)、たけのこ料理(特産品)の試食会やタンポポを使った商品開発(夢部会)、サロン会を実施(支え合う部会)。新鮮なアイデアで元気な地域につながっている。
 - ・砂糖を使わず健康に良い山北みかんのピューレを開発。
- ④移住促進
 - ・香南市ウエルカム移住・定住促進事業として、中山間地域をモデル地域(香我美町東川・西川地区、夜須町北部地区)としての空き家の掘り起こしを実施。結果、お試し住宅、移住者支援住宅用の掘り起こしが各 1 件。また、香南市ウエルカム移住・定住促進事業を拡充し、平成 28 年 11 月から市内全域を対象として空き家バンクの設置を行い、3 棟の登録。その内、2 棟が入居中。(1 棟は県外移住者)
 - ・移住相談会等に参加(6 回)。相談は 66 件、ツアー参加者は 2 名。
○高知暮らしフェア H28.6/11(大阪)6/12(東京) 14 組
○高知まんなか移住相談会 H28.10/21(東京) 5 組
○ふるさと回帰フェア H28.10/22(東京) 5 組
○高知暮らしフェア H28.12/10.11(大阪・東京) 25 組
○JOIN 移住・交流&地域おこしフェア H29.1/15(東京) 17 組
○高知まんなか移住体験ツアー H29.2/4・5 2 名
 - ・高知県版 CCRC 構想(H28.7)の策定を受け、県移住促進課と情報共有など連携を行う。

人口減少問題を考える会の開催(4回：7/21・8/29・9/30・10/11)【施策検討案】

- ・各課や幹事会へ提案を行い、「地域おこし協力隊の募集」が一部実現。
- ①20代から40代の子育て世代への施策の検討
 - 児童手当の拡充や祝い金の支給 →現金の支給だけにならない施策を今後は検討する。
- ②移住者を呼び込むための施策検討
 - 市内企業に移住者枠の採用をしてもらう →どのような制度が有効か検討する。
 - 地域おこし協力隊を10人採用する →庁内で協力隊のできる業務がないか調査する。

2. 課題と今後の取組

(1) 移住・定住促進のためのしくみづくり

- ①「香南市を知って、好きになってもらう」魅力、多様な情報の発信
 - ・移住応援ガイドブックのPR(活用)と移住専門HPの充実および周知を図る。
移住促進プロモーションビデオを作成。
- ②若年層の交流・情報交換やイベント開催
 - ・継続して若年層の交流、イベント開催支援などに取り組む。
- ③産官学連携、人材育成による暮らしと産業が調和した自立地域への支援
 - ・引き続き高知大学の学生と一緒に地域の活性化を図っていく。また、これまで開発した商品(ジャム・タンポポ茶)の販路拡大やPR、見直しに取り組む。
 - ・新しく開発したピューレを使って商品開発に取り組む。
- ④移住促進
 - ・お試し住宅や移住者支援住宅は、所有者との契約をはじめ、改修等の整備を行い、供用開始を行う。
空き家バンク登録については、件数の増加に向けて掘り起こしを継続する。
移住希望者の負担の軽減となる新規事業を実施し、香南市ウエルカム移住・定住促進事業の拡充を図る。
 - ・中央広域4市(高知市、南国市、香美市、香南市)で連携した広域的な取り組みを継続する。(移住相談会・移住体験ツアー)
 - ・庁内において CCRC 構想の理解を深めるため議論、勉強会を行う。



平成 29 年度の新たな取組

- 継続** ①地域おこし協力隊を募集し、5年間で延べ10人採用する。平成29年度は3人採用予定。
- NEW** ②移住者等への住まい提供のため、空き家バンクへの登録を条件とし、**空き家改修補助**を実施。
- 拡充** ③移住をきっかけに農業を始めたいなど、農業に関心のあるUIターンなどを積極的に受け入れ、定住促進と耕作放棄の解消につなげるため、**農地付き空き家バンクプラン**を実施。

基本目標 3： 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
基本的方向： (1) 人生をトータルでサポートする体制づくり (2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援	
概要	○香南市人生支援計画に基づき、若者の出会いの場づくりや子どもを安心して生み育てられる環境づくりなど、市民の人生をトータルでサポートする行政の体制づくりを目指します。
目的	○家庭・地域・学校の連携・協働を進めることで子どもから高齢者まで様々な人が参加・交流し、地域を活性化させ、子育てを中心とした地域社会のつながりの再生を促進します。安心して結婚・出産・子育てができる環境を整備します。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
婚姻件数	144件	実績値 139件 目標値 148件	154件
合計特殊出生率	1.44	実績値 1.52 目標値 1.50	1.60

【直近の成果 (アウトカム等)】 婚姻件数 (人口動態調査) 139件 ※統計で見る市町村のすがた 2017 より
合計特殊出生率 (住民基本台帳) 出生率 (1.52)

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

- (1) 人生をトータルでサポートする体制づくり**
- ①ライフステージに応じた切れ目のない支援
- 人生支援計画策定委員会を3回 (6/23・10/26・2/9) し、幼年期から高齢期までのライフステージの各段階に応じた切れ目のない施策を維持管理。人生支援計画について4つの新事業を提案実施。
 - 人口減少問題を考える部会を開催 (4回)
 - 香南市独自の健康ポイント制度を検討。「高知家健康パスポート」を取得した人を対象にサービスを展開する「香南まるごとポイント制度」を平成29年度から実施。
- ②若者の出会いの場づくり
- 男女の出会いの場づくりとして、「香南市恋い・めぐりあい応援事業」を実施。婚活支援団体 (よりあいにこ家) が夜須町において2回のイベントを開催。(①9/4 男女38人、②12/24 男女20人) また、香南市主催の婚活セミナーを羽尾大釜荘で開催し、男女19人が交流。(合計3回)
- (2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援**
- ①子育てを支援する地域の育成
- 学校地域支援本部設置事業は積極的に導入を進めており、設置数 (5校) も目標値どおり。
- ②子育て施策の充実
- 乳児家庭 (生後4ヶ月までの乳児) への訪問は順調に実施。訪問率は、複数回訪問することもあり、100%を大きく上回る155.3%となっている。全世帯に対する訪問率は、99.2%である。(実家や入院の関係で訪問不可能な家庭もあり100%は困難)
 - 地域子育て支援センターの利用者増加を目指し継続的に事業に取り組んだが、4,542人と目標 (5,200人) には至らなかった。
 - 市ホームページにおいて平成28年5月より子育て情報サイト「香南キッズ」を設け情報を発信。5月からの3月末の子育て情報サイトへのアクセス数は1,826件となっており、想定より利用者は伸びていない。
 - 香南市ファミリーサポートセンター事業が11月よりスタート。「まかせて会員」への登録に伴う、講習会を開催。(第1回8/20・21・第2回11/24・25) 平成28年度は、お願い会員20人・まかせて会員21人・両方会員1人が登録。活動状況は延46回。
 - 子どもたちの夢を募集し、のびのびと育つことを目的に夢の実現に向けた支援として「香南っ子夢実現プロジェクト」を実施。小6対象にアンケートを実施 (10/14) し、「科学の力を体験」を選考。
- ③多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充
- 保育所での子ども一時預かりを継続して実施。預かり数は延977人。(香我美おれんじ、夜須、赤岡の各保育所)
 - 平成28年度より野市小学校第3児童クラブの開設による定員増により受入拡充が図れ、合計で359人の利用者があった。また、佐古小学校・野市東小学校の児童クラブ増設を行った。



2. 課題と今後の取組

- (1) 人生をトータルでサポートする体制づくり**
- ①ライフステージに応じた切れ目のない支援
- 引き続き策定委員会を開催し、人生支援計画の重点施策等の進捗状況を管理する。提案された新事業の充実と新たな事業の提案を行う。
 - 人口減少問題を考える部会での新たな事業提案を行う。
 - 「香南まるごとポイント制度」の周知を行い、市民の健康意識の向上と健康行動の促進を図る。また、貯めたポイントは香南市ギフトカタログで使えるクーポン券と交換でき、地域の商店に還元していく。
- ②若者の出会いの場づくり
- 継続して若年層の交流、イベント開催支援などに取り組む。
- (2) 子ども、子育て支援・環境の充実支援**
- ①子育てを支援する地域の育成
- 校長会等で学校の取り組みを紹介し、計画どおり導入校を増やす。
- ②子育て施策の充実
- 引き続き、乳児家庭訪問はできるだけ生後1ヶ月まで、遅くとも生後4ヶ月までに実施を行う。
 - 地域子育て支援センターは、平成31年度に総合子育て支援センターとして開設予定。これまでの子育て相談に加えて、病後時保育や子ども発達相談などサービスの充実が図れる事業内容や施設整備を行う。
 - 今後も子育て情報サイト「香南キッズ」の周知を今まで以上に多くの場面で行う。また、関連する部署と連携し内容の充実に努める。
 - 香南市ファミリーサポートセンター事業の内容や会員登録についての引き続き周知を行い、利用者を増加させる。まかせて会員講習会の開催・会員同士の交流会の開催・ファミサポ通信の作成を行う。
 - 平成28年度選考の夢を実現。翌年度の夢を募集 (市内8校の小学5年生) し、選考と予算化を図る。
- ③多様な保育事業・放課後児童クラブの拡充
- 一時預かりのニーズは増加しており、受入体制を整えていく。香南市立の全幼稚園で平成29年度から「預かり保育事業」を実施。
 - 平成29年度からは、佐古、野市東小学校が児童クラブ増設による定員増を行い、6年生までの受入を始める。また、若杉児童クラブも5月から再開され、定員増加に合わせて、一層の体制充実を図る。



平成 29 年度の新たな取組

- NEW** ◎人生支援計画の中で分野別部会を新たに立ち上げるよう検討。
- NEW** ①結婚に伴う新生活を経済的に支援する、**結婚新生活支援事業**を実施。
- NEW** ②不妊治療の助成として、**一般不妊治療費助成事業**を実施。
- NEW** ③高知家健康パスポートを利用した、香南市のポイント制度「**こうなん健康チャレンジポイント**」の実施。成功報酬として香南市ギフトカタログで使用できるクーポン券を配布。
- 継続** ④「**香南っ子夢実現プロジェクト**」として、平成28年度に募集した夢の実現。

基本目標 4： 時代に合った地域をつくり、地域の連携により安心なくらしをまもる	
基本的方向： (1) 協働のまちづくり推進 (2) 災害に強いまちづくり	
概要 目的	<p>○地域コミュニティの維持や活性化を促進する、地域の仕組みづくりを支援していきます。</p> <p>○診断士を派遣し診断、耐震化のための工事費に対する補助金など、個人住宅の耐震化を促進するとともに、各地域の防災体制づくりのリーダー育成の研修など、地域の自主防災組織づくりへの支援、災害時の地域の支え合い体制の強化を図ります。</p>

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
自治会結成率	協議会 47%	実績値 53% 目標値 63%	100%
	自治会 61%	実績値 86% 目標値 89%	100%
自主防災組織結成率	89%	実績値 89% 目標値 91%	100%

【直近の成果 (アウトカム等)】 (H29 年 3 月末) 協議会 10 組織/全 19 組織 自治会 83 組織/全 97 組織
自主防災組織 13052 世帯 (自主防加入世帯) /14595 世帯 (全世帯)

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

(1) 協働のまちづくり推進

①住民との情報交換

・4月15日から5月20日にかけて、市内18カ所で地区懇談会を開催。のべ909人の参加。地区懇談会カルテ更新済。14ヶ所(香我美6ヶ所、夜須、赤岡、吉川各1ヶ所、野市5ヶ所)

②地域活動の支援体制強化

・自治会が新たに4組織設立し、合計83組織となった。協議会は10組織の現状維持。香南市地域活性化総合補助金事業を順調に実施。自治会等の役員を対象にしたワークショップ方式の「香南市まちづくりフォーラム」を(10/15)に開催。自治会同士の連携や共通の課題解決策を考えることが出来た。

(2) 災害に強いまちづくり

①耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実

・市広報や自主防災組織研修会などで制度のPRを実施し、127件の耐震診断を実施。新聞広報やテレビCMなども使い広く周知が図れた。
・備蓄について食料、水の本年度分の整備は完了し、現在70.0%の備蓄率である。また、備蓄倉庫については野市町への整備を進めている。

②自主防災組織の設立・活性化

・設立については、平成26年度から99組織であり、働きかけは行っているが、成果には至っていない。
・自主防の活性化について、県主催のリーダー育成研修、防災士研修、シンポジウム等への各種参加案内を通知している。7組織が研修会等に参加したが、目標達成には至っていない。

③災害時における地域の支え合いづくり

・避難行動要支援者名簿を作成し、避難支援プラン(個別計画)作成対象者(853名)からの情報提供に関する同意書の取得に努めたが、回収率がかんばしくなく、個別計画の作成が1件しか出来なかった。

④消防・防災対策の強化

・県下一斉の避難訓練に合わせ市の総合防災訓練を実施(9/4)。吉川をメイン会場とし、赤岡小学校、城山高校で避難所運営訓練を行った。雨天のために総合訓練の大半が中止となり、参加者は4,304人と例年より少なかった。
また、防災無線放送に合わせ、市内一斉のシェイクアウト訓練を実施。



2. 課題と今後の取組

(1) 協働のまちづくり推進

①住民との情報交換

・地区懇談会でのご意見や要望、提案は、内容を確認のうえ要点をまとめ、地区懇談会カルテとして主要な公民館に質問内容・当日回答・後日対応などを記載したものを設置している。

②地域活動の支援体制強化

・市内全域での自治会設立を目指し取り組みを進める。未設立地域では、住民説明会などを通じ、設立に向けた話し合いを地域支援課及び地区担当職員と一緒に進める。

(2) 災害に強いまちづくり

①耐震化の促進、災害時備蓄品整備の充実

・住宅所有者の負担軽減のため木造住宅耐震設計補助金を10万円上乗せ(合計305,000円)し、耐震化を進める。また、引き続き制度の周知を行うとともに、耐震診断後の改修工事まで進むよう、住宅耐震化の重要性を周知していく。
・引き続き、備蓄倉庫の整備及び備蓄品目、数量の拡充を行う。

②自主防災組織の設立・活性化

・未設地区に対する対応、設立済地区に対しては、資機材の再整備等広報し、継続的な活動の働きかけを実施する。
・連携中枢都市圏の連携事業として高知市と連携し、防災研修への参加機会を増やし啓発していく。

③災害時における地域の支え合いづくり

・H29年3月末で同意書の回収率は68.2%であり、残りの同意の確認と個別計画の作成に取り組む。

④消防・防災対策の強化

・天候による影響の少ない会場の検討や、住民に対し、訓練の重要性や防災意識の高揚を図る。

平成 29 年度の新たな取組

拡充 ①木造住宅耐震設計補助金を205,000円から305,000円に引き上げ。



基本目標 4： 時代に合った地域をつくり、地域の連携により安心なくらしをまもる	
基本的方向： (1) 交流人口拡大 (2) 大学との連携	
概要	○地域と協働し、活動拠点としての集落活動センターの運営体制や組織の強化を図ります。また、歴史・食・体験などの地域資源活用など、交流人口の拡大のための拠点づくりや強化を進めます。
目的	○香南市の中山間地域の再生と持続可能な地域の構築に向けて、地域の活性化と振興に寄与する事業推進のため大学と連携し、多様な分野で事業に取り組みます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値/目標値 (H28)	H31 年度末の目標
自治会結成率	協議会 47%	実績値 53% 目標値 63%	100%
	自治会 61%	実績値 86% 目標値 89%	100%
自主防災組織結成率	89%	実績値 89% 目標値 91%	100%

【直近の成果 (アウトカム等)】 (H29 年 3 月末) 協議会 10 組織/全 19 組織 自治会 83 組織/全 97 組織
自主防災組織 13052 世帯 (自主防加入世帯) /14595 世帯 (全世帯)

1. 取組状況および成果 (H28 年度)

- (3) 交流人口拡大
- ①集落活動センター (小さな拠点整備)
 - ・西川地区集落活動センターでは 3 つの部会 (夢・支え合う・集う) を組織し、それぞれが活動計画を立て取り組みを進めている。
 - ②地域団体の活動促進、支援充実
 - ・地域活動団体の育成に向けた取り組みを行っており、2 団体の活動に補助金を交付。(こもれびマルシェ・長平ライダーカップ)
 - ③歴史・食・体験等による交流人口の拡大
 - ・観光客入込数は、目標 153.7 万人に対して 140.2 万人の実績。
 - ・香南市観光クラスター協議会を立ち上げ、歴史を中心とした博覧会 (志国高知 幕末維新博) の取り組みを通じて、市内に存在する歴史資源の磨き上げ (リアル化) や、磨き上げた歴史資源を含めた観光資源を周遊できるコース (観光クラスター) の整備に取り組み、史跡看板設置 (12 箇所) や YASU 海の駅クラブ前の観光案内板改修、絵金蔵の整備および工事を行った。
 - ・観光施設連絡会を開催 (9 回) し、維新博のリアル化・クラスター化、香南市周遊サイクリングコース作りについて協議。サイクリング周遊マップ「まるごと体験ツールド・香南」を作成した。
- (4) 大学との連携
- ①大学との連携
 - ・平成 27 年度から高知大学地域協働学部と連携し、西川地区集落活動センターでの活動を通じた学びの場の提供を行っており、H28 年度入学した 1 年生 (10 人) も西川地区で学んでいる。
 - H28 年度は、延 373 人の学生が参加し、まちあるき (10 月)、地域住民の思いをヒアリング (11 月)、みかんの収穫体験 (11 月) を実施。また、学生からの地域の課題解決に向けたアイデア (企画提案) を実際に地域で実現し、地域の活性化につなげた。(チェアヨガ教室：10 月、地域のニーズアンケート調査：12 月、西川冬祭り：1 月)
 - ・平成 28 年度高知大学出前公開講座を 9 月より全 5 回で開催し、34 名の受講生が参加した。



2. 課題と今後の取組

- (3) 交流人口拡大
- ①集落活動センター (小さな拠点整備)
 - ・西川地区にとっても学生の新鮮なアイデアや意見に刺激を受けながら、各部会の事業計画に活かしたり、活動作業の手助けになったりと地域が活性化している。引き続き、学生と連携しながら新鮮なアイデアで地域を元気にしていく。
 - ・新たな集落活動センター設立に向けた説明会を実施し、準備会を立ち上げる。
 - ②地域団体の活動促進、支援充実
 - ・引き続き交流人口に拡大に寄与する活動団体の掘り起こしや、事業の啓発等を行う。
 - ③歴史・食・体験等による交流人口の拡大
 - ・目標の観光客入込数に達するよう、引き続き情報発信や各施設との連携を強化する。
 - ・磨き上げた歴史資源とその周辺観光資源の周遊促進に向けて、幕末維新博メイン会場や道の駅などにガイドブックを配備。また Web を活用した情報発信を行い、市内外の観光客を呼び込めるよう各施設との連携を強化していく。
 - ・維新博のリアル化、クラスター化について引き続き協議していく。また、高知新港に寄航が予想される外国客船に対する香南市への誘客・満足度向上を図る。
- (4) 大学との連携
- ①大学との連携
 - ・西川地区集落活動センターでの継続した取り組みを行う。また、引き続き学生からの地域の課題解決に向けたアイデア (企画提案) を実現に向けて取り組む。
 - 学生の参加については、新たに新 2 年生 (9 人) と新 3 年生 (10 人) を受け入れていく。
 - ・高知大学出前公開講座を継続して実施する。

平成 29 年度の新たな取組

- NEW** ①高知大学地域協働学部と連携し、まちづくりセミナーを 2 回実施する。